

名寄市立大学の窓から知への誘い

「スクールカウンセリングの普及を願って」

保健福祉学部 社会福祉学科 教授 小林 宏

vol.48

若い頃から「年をとって子育ても終わり両親の介護やみとりに一段落したら、まるで住んだことのないところに住んでみたいね」と家族とも話し合っていました。

8年前にある程度条件が整い、インターネットで大学教員の公募情報を集めていたときに名寄市立大学を初めて知り応募すると、ほとんど拍子で話が進み赴任が決まりました。

神戸市をはじめ兵庫県内にしか住んだことのない私たちがとって不安もありましたが、住んでみると市民の方々は本当に親切で、たくさんのおい出をいただきました。その私たちも、私の定年退官で平成28年度をもって、名寄を離れることになりました。これまでの厚いよしみに紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

さて、私の専門は臨床心理学やカウンセリングです。

もともと兵庫県立高校の社会科の教師でしたが、昭和50年代に初めて本格的な不登校（当時は「登校拒否」と言った）の生徒の担任になり、「今後はこの領域も勉強しておかない」と臨床心理学やカウンセリングの勉強を始めました。

やがて内地留学※1で母校ともなった兵庫教育大学の客員教員を兼務しながら、兵庫県教育委員会の教育相談センター担当指導主事として多くのカウンセリングに携わりました。

同じ1人の高校生に接しても、教師とカウンセラーではまったくアプローチの方法が違います。教師は多くの児童や生徒に接します。だから15歳の生徒の学力はもちろんだ、社会性や対人関係能力の「平均値」がわかります。そして「平均値」からその生徒を理解しようとして、一方、カウンセラーはあくまで他と比較せず、

その生徒の生育歴や家族歴からその生徒自身とひたすら向き合います。また教師はその生徒の短所や欠点に気になります。なぜならその生徒をよくしたいからです。一方、カウンセラーはその生徒の長所や優れているところを探します。その生徒の悩みを直視して少しでも解決に近づくのはその生徒自身であり、そのための能力を探すためです。

よく聞かれるのが「カウンセリングは効くんですか」という質問で、私は「効くこともあれば効かないこともあります」と答えています。しかし、人間はストレスを感じると「言語化」で対処します。愚痴を言ったり聴いてもらったりと酒場の中は大半がそんな会話だと思えます。「言語化」がうまくいかないと、登校時間になるとなぜかおなかや痛くなったり頭痛がしたりという「身体化」が起こったり、

不登校やリストカットといった「行動化」が起こったりします。カウンセリングとはそれらのストレスを「言語化」レベルに引き戻し、生徒に寄り添いながら心の落ち着きを取り戻すことを助ける作業と言えます。

東京都や兵庫県など全ての中学校にスクールカウンセラーを配置している都府県も多いですが、北海道では札幌市だけです。私も、近隣の道立高校3〜4校でスクールカウンセラーをしています。その頻度（時間数は圧倒的に少ないです。早く道北地域にもスクールカウンセラーが配置され、活用できることを期待しています。

※1内地留学

官庁・会社・学校などの職員が、現職のまま国内にある自己所属外の大学や研究機関に派遣されて長期にわたる研究をすること。



り使いやすく探しやすくなるように工夫した配架計画を考えています。



▲新図書館工事のようす（外装が完成しました）

●問い合わせ

名寄市立大学図書館

☎01654②4199(本館:内線3114/分館:内線2200)

新図書館完成へのカウントダウン！

平成29年4月にオープンする新図書館の完成が間近となりました。それにともない、引っ越しの準備も着々と進んでいます。

現在、大学図書館本館や分館、書庫などいろいろなところに配架、保管されている図書や雑誌は、新図書館では統合され、2階と3階に配架されます。

その際、一般的に書籍は、0～9の数字でジャンル分けし、同じ内容の本が同じ場所に集まるように「日本十進分類法」の番号順で並べられますが、本学学生の学習行動や一般の方の利用傾向などを考慮して、よ